年頭所感

全日本遊技事業協同組合連合会
理事長　原田　實

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、益々ご健勝で輝かしい平成23年の新春を迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、平素からのご指導、ご支援に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

まず、私ごとではありますが、昨年、全日遊連では役員の改選があり、多くの方々からご支援、ご協力をいただき、私も理事長として二期目を迎えさせていただくこととなりました。そのご期待にこたえるためにも、今年も、執行部一同一丸となり、皆様のお知恵を頂戴しながら、業界発展のため、全力で仕事にあたる所存であり、厳粛な年の初めにあたり、気持ちを新たにしているところであります。

さて、昨年は、世界的不況に端を発した影響が影を落としながらも、我が国の経済もゆるやかながら持ち直し、私たちホール業界においても、店舗数の減少も下げ止まり、遊技人口も微増の傾向にあると言われておりました。しかし、まだまだ景気が回復したといえる状況ではなく、相変わらず厳しい業況であることに変わりはありません。

私たちの業種は、かつて不況に強い業種と言われてきました。私たちもまた、それに甘えていたのかもしれません。今、あらゆる産業が、国民から本当に必要であるのか、その存在意義を問われている、そんな時代を迎えたのではないでしょうか。社会にとって、国民にとって、私たちの業のあるべき姿とはどういうものであるのか、何を求められているのか、今こそ根本的に業としてのあり方を見直すべき時なのだと思います。その答えは、業界に関わる全ての者で導き出してゆかなくてはなりません。時代の変化という大きな波を乗り越えるためには、共に力を合わせ、団結することが必要不可欠であります。皆様と共に、長い歴史の中で育まれてきたパチンコという文化を後世に伝えてゆきたいと思います。

昨年も、活発に他団体と協議を進め、APEC開催に伴う遊技機の入れ替え自粛、ホール5団体によるエコホール宣言等、様々な取り組みを行いました。また、全日遊連の全面的な支援により設立した、ぱちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワークを21世紀会の会員である業界14団体で支援することとなり、パチンコ依存問題に業界全体が取り組む体制となりました。

こうした団体間による協調した動きも、各団体の皆様が、業種を超えた団結の必要性を認識された結果、成し得たものであり、また、現在、他団体との友好的な気運は、かつてないほどに高まってきていると実感しております。

この流れを今年にもつなげ、今年が業界にとって、輝かしい年になるよう、ご協力、ご支援を重ねてお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。

年頭の御挨拶

一般社団法人遊技産業健全化推進機構
代表理事　河上和雄

遊技産業健全化推進機構が設立され、新年で5年目を迎えました。

機構の立入検査は、検査開始からの累計店舗数が、本年度途中で1万店を突破致しました。これで全国のホールの8割以上をカバーしたことになり、当機構の基幹業務である立入検査活動は順調に進行していると考えます。

しかし、いくつか残念な事案もありました。機構の立入検査を妨害する行為があったことです。検査員の店内立入を拒み続けたり、検査員に罵声を浴びせたりするなど信じられない対応がありました。こうした事態に対処するため、当該の関係団体へ注意喚起をお願いするとともに、理事会で立入拒否の基準などを定め、社員団体へご報告しております。新年にあたって遊技業界に関わる方々すべてに、是非、原点に立ち戻って当機構の存在の意義を思い出し、支えて頂きたいと思います。

さて、経済動向ですが、世界経済は混迷が続き、その中で日本経済はデフレ基調から抜け出せていないのが現状です。ほぼ全業種で生産活動が鈍っており、経産省は鉱業生産指数の基調判断を08年夏以来の「弱含み傾向」と下方修正したほどです。平均給与は前年より減っており、総務省は「教養娯楽の支出」が前年より減っているとの家計調査結果を公表しています。

また、カジノ法案やパチンコ新法案の動きが出ております。どう推移していくかは分かりません。が、遊技業界を取り巻く環境が急変しており、なかなか予測がつかない時代に入っているとは言えるのではないでしょうか。パチンコ・パチスロが現在のような形で存続していけるのかどうか、見直さなければならない時期に来ているように感じます。

こうした時期に必要なのは「結束」ではないでしょうか。個人的な見方かもしれませんが、これまで遊技業界は、各分野の意見を集約する作業が欠けていたように思えます。時代の大きな波が押し寄せているこの時期、各関係団体がひとつにまとまっていくことを切に願うものです。結束が固く強いパワーを生み出せれば、幾多の困難を克服出来る可能性が高まるからです。

当機構も業界健全化の立場から、努力を続けてまいります。各分野の皆様とともに難局に立ち向かうつもりです。是非、よろしくお願いしたいと思います。

結びにあたり、皆様方の新年の益々のご繁栄、ご健勝を心より祈念いたします。